成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度

令和4年度

市町村名	志木市			
提案事業名	館地区における健康増進事業			
事業期間	令和4年度～令和4年度			
事業の必要性、目的	ふれあい館もくせいと周辺環境の再整備、健康増進等に資するソフト事業の充実により、ふれあい館もくせいの利用者の増加や地域コミュニティの活性化を図り、これらの取組を通じて健康増進と地域活性化の好循環を生み出すことにより、高度経済成長期に開発され、現在では市内で最も高齢化率が高い地区である館地区（志木ニュータウン）の健康づくりを推進する。			
成果指標	（成果を検証する指標） ふれあい館もくせいにおける健康増進事業の参加者数			
	（成果検証の具体的な方法） ふれあい館もくせいで実施する介護予防事業を含めた健康増進事業の参加者数を集計する。			
	（上記の指標を設定した理由） 健康増進事業の参加者数の増加は、健康増進事業の主な目標である健康寿命の延伸に直結する指標であり、事業の効果測定を実施する上で最適の指標である。			
	（成果の目標値）			
	現状値(人) (R4年3月現在)	2,177	目標値(人) (R6年3月時点)	3,000
	（施設建設等の場合）			
年間利用者数(目標)(人)	3,300	稼働率(目標)(%)	40%	
住民への公表方法及び特記事項	市ホームページに記載			

【成果指標と構成事業の関連性】

令和4年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① ふれあい館もくせい再整備等事業	ウォーキングを行う市民が気軽に立ち寄りやすい施設になるとともに、歩道からの視認性の向上により、地域における施設の認知度が向上する。また、キッチン、活動スペースの設置により、健康増進事業や地域コミュニティの活性化につなげることで、健康増進事業への参加者数の増が期待できる。	108,734
② 志木ニュータウン歩道快適化事業	快適で安全な歩行環境が実現しウォーキングに取り組む市民が増えることで、健康意識の向上につながり、また、ふれあい館もくせいがウォーキングの拠点となることで、ふれあい館もくせいの来場者数の増にもつながり、その結果、健康増進事業への参加者の増が期待できる。	60,415
③ 公園を活用した健康増進事業	働く世代について、健康意識の向上につながることで、その結果、健康増進事業への参加者の増が期待できる。	1,122
④		
⑤		
⑥		
合計		170,271

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	広報紙への掲載など全市的な情報発信と、施設の管理運営を行う民間企業を含めた関係機関と連携を図りながら、事業を効果的に実施していく。
成果指標の達成見込み	上記方策を着実に実施することにより、指標を達成することは可能と考える。

(記入上の注意)

【成果指標の設定】

・住民への公表方法は具体的に記述すること

【成果指標と構成事業の関連性】

・提案事業を構成する各事業(構成事業)について次のとおり分類すること

「ハード」 施設建設等が中心の事業(ハード事業)。

「ソフト」 主に人的要素を活用した活動でハード事業以外の事業(ソフト事業)。

「間接補」 青年会議所、商工会議所・商工会、自治会、NPO等の公共的団体が実施する事業
に対して市町村が補助金を交付するもの(間接補助事業)。

・事業費は補助金を要望する単年度の事業費のみ記入すること。また、間接補助事業の場合には、
事業費の下に()書きで、市町村の負担額又は補助額を記入すること。